

令和2年度 特定非営利活動に係る事業報告書

特定非営利活動法人
たてやま・海辺の鑑定団

1. 事業の成果

令和2年度（2020年度）は、令和元年の台風の影響が残る中で、新型コロナウイルス感染拡大の影響をこの地域に限ったことではないが、大きく受けている。主な活動エリアである沖ノ島は、コロナ禍の影響で2020年4月25日から9月30日まで閉鎖となり、大きな影響を受けた。

①自然環境保全に係わる自然体験活動及び環境教育活動に関する事業

(1) 地域住民や来訪者に館山市沖ノ島を中心として、様々な地域資源を活かした自然体験プログラムや体験活動を、年間を通じて実施し約120人の受入を、新型コロナの影響と沖ノ島閉鎖の影響は否めない中ではあったが感染症対策の上、可能な限り行なった。沖ノ島での自然体験プログラム実施においては、プログラムの定期開催を継続し、宿泊施設等と連携・協力連携し約90人の方々が参加し。

(2) 館山体験交流協会やNPO法人千葉自然学校など協力し、南房総・館山に来訪する学習旅行や修学旅行の小中高校生や各種団体に対して館山市沖ノ島と大房岬をフィールドとして自然体験を通じた学習プログラムを新型コロナの影響、沖ノ島閉鎖の影響は否めない中ではあったが、感染症対策の上、行実施した。例年より少ない人数、延べ約1050人の子どもたちなどに自然の大切さや環境保全に対する啓発を行うことができた。

(3) 自然環境を考えるきっかけとして、コロナ禍で閉鎖中の沖ノ島ではなく近隣の大賀海岸にて北限域のサンゴの観察会（スノーケリング体験）を感染症対策の上7・8月に実施することができた。約150人の地域住民や来訪者が参加した。

(4) 釣りを通じた、環境教育の一環として、釣り体験・釣り教室・釣り大会を、館山周辺の海辺や「館山夕日栈橋」を活用し、感染症対策の上、主に9・10月に実施した。地域住民や来訪者約70人が参加した。

※コロナ禍で、活動は縮小してしまった。

②自然環境保全活動及びその普及啓発活動に関する事業

(1) 自然環境保全を直接考える事業として、クリーンアップ全国事務局（JEAN）の協力で、10月3日、館山市沖ノ島にて、調査を視点とした海岸清掃を感染症対策の上実施した。台風15号の被災により、約50人で実施した。それによって海岸に打ちあがるゴミ（人工物）などのデータを作成し、全国レベルでの情報の共有と、地域における環境保全の啓発を図ることができた。尚、コロナ禍で閉鎖中であった沖ノ島が10月1日から解放されたため、タイミングの良い活動となったと思っている。

(2) 地域の資源である自然環境の魅力の再認識と環境啓発のためのガイドブック「海辺の生き物語」約60冊を、地域の書店や、観光施設、青少年教育施設、自主事業、オンライン活用を通じて活用した。

(3) 独立行政法人環境再生保全機構「地球環境基金」の助成を受け、「南房総館山沖ノ島の海辺を「守り」「伝える」ための仕組み強化による環境保全・再生の普及啓発活動と実践活動」を行った。

■仕組強化：

・官民連携の「沖ノ島について考える検討会議」を、年2回開催し「仕組み」の必要性を確認、沖ノ島の持続可能な仕組みについて具体提案と行動を行った。コロナ禍により2回の開催にとどまった。

・9月30日に横須賀市猿島公園に7名で無人島観光の先進地として視察した。沖ノ島と同様の島と公園という点から最新取り組み手法を学ぶことができた。

■普及啓発活動：沖ノ島の自然環境の「大切さ」を多くの人に伝えるための普及啓発活動を行った。

※沖ノ島閉鎖の為事業を変更して行った。

・「沖ノ島遊びつくすガイドブック」を25,000部作成し、主催自然体験活動、館山市、沖ノ島での直接配布などを通じて、新型コロナの影響と沖ノ島閉鎖の影響は否めない中ではあったが、約1,400部活用し普及啓発活動を行った。

・館山湾と沖ノ島の「里海博」（沖ノ島シンポジウム）を、2020年11月23日に開催（オンライン同時開催）し、オンライン参加を含めて236名が参加した。地域の海辺の自然環境の現状と取り組み老若男女を問わず共有することが出来た。

・新型コロナの影響と沖ノ島閉鎖の影響を鑑みて、自然環境や活動にかかわる動画コンテンツを17本作成し、YouTubeチャンネルの活用による普及啓発を行った

■実践活動：沖ノ島アマモ場再生活動を新型コロナの影響と沖ノ島閉鎖の影響は否めない中ではあったが関係者を中心に行った。

・5月に沖ノ島の北側にアマモの苗を約1,300株、浅瀬と中間域に関係者にて約100㎡移植した。アオリイカの産卵床の設置により食害の軽減に努めた。今年度は、11月にも追加移植を行い食害と思われる減少により影響は大きい若干生存している。さらにノウハウを蓄積することができた。

・5月～6月に花枝採集し熟成（約3,000本）

・9月に館山総合高校の協力により種選別、一般参加者も含め11月に苗床づくり（プランター約90個）、育苗中の苗は約2,000株育成している。（2021年度に移植予定）延べ70人が参加した。

(4) 台風15号、19号の影響により、主な活動フィールドである沖ノ島に多数の倒木が発生した。新型コロナの影響と沖ノ島閉鎖の影響は否めない中ではあったが関係者を中心に、館山市の許可の元NPO法人地球守の協力を得て、沖ノ島の森の再生活動を計11回（内1回は募集型ワークショップ）行った。再生実証区約3000平方メートルに着手し、倒木更新と萌芽更新などを確認した。再生活動は自然の力を活かす形で行っている。延べ381人が参加している。

2. 事業の実施に関する事項

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数
①自然環境保全に係わる自然体験活動及び環境教育活動に関する事業	(1) 沖ノ島自然体験	定期開催 他	沖ノ島など	20人	地域住民および来訪者 約120人
	(2) 体験学習	主に 9.10.11月	沖ノ島大房 岬	20人	修学旅行・学習旅行の小中高校生および団体 約1050人
	(3) サンゴ観察体験 (スノーケリング体験)	7.8月に実施	大賀海岸	20人	地域住民および来訪者 約50人
	(4) 釣り体験活動による環境事業	9.10月	館山周辺	20人	地域住民および来訪者 約70人

②自然環境 保全活動及 びその普及 啓発活動に 関する事業	(1) 海岸清掃(調査)	10月	沖ノ島周辺	15人	参加者約50人 地域住民、 来訪者 不特定多数
	(2) 環境啓発	通年	地域の書店 観光施設 青少年教育 施設 自主事業 オンライン 活用	10人	地域住民、来訪者 不特定 多数 ・ガイドブック「海辺の生き 物語」約60冊活用
	(3) 地球環境基金事 業 南房総館山沖ノ島の 海辺を「守り」「伝え る」ための仕組み強 化による環境保全・ 再生の普及啓発活動 と実践活動	通年	館山市 沖 ノ島	30人	・検討会議開催2回 ・先進地視察7人 地域住民、来訪者 不特 定多数 ・リーフレット活用枚数約 1400枚 ・動画コンテンツの作成 17本 ・シンポジウム 地域住民 来訪者約236人 ・アマモ場再生活動延べ約 70人
	(4) 森の再生活動	4月～3月	沖ノ島	延べ約20 人	地域住民及び来訪者 延べ 380人